内閣文庫
和書
類 八七三
號 一一
冊 一四
函 一七二
架

内閣文庫
番號 和 8873
冊數 11 (6)
函號 172 178

禮

恵教院

綴じ部（喉部分）の文字など開きが不鮮明な箇所あり

国立公文書館
National Archives of Japan

宮内省圖書寮
制度取調
左藏書

都名所圖會卷之六目錄

後元武

下加茂　御手洗川
葵祭之図　競馬圖
岩本社　松ヶ崎
沖美藤沈　地藏堂
行遠土手　八坂図
北岩倉大雲寺　智辯水
太良坊社　ふごゆろし
暗部山　帆立石
靈源寺　神光院
藥師寺　鷲ヶ峯
岩門　光悦寺

河合社　紀川原涼圖
上加茂社　橋本社
本滝寺　妙泉寺
幡枝圓通寺　市原小町寺　小町塔　少将塔
長谷八幡宮　朗詠谷
鞍馬寺　僧正谷
竹伐場　貴船社　御舟　龍王瀧
大悲山　西加茂
正傳寺　送火流舟場
法義瀧林　源光庵
千束　題目堂

菩提瀧
紫野大德寺
義經誕生水
今宮御旅
清和院
引接寺
北野天滿宮
大圓茶湯旧地
金閣寺
芙容池
双園
御室仁和寺
印金堂
岩屋山
今宮社
舟岡山
金山天王寺
立本寺
轉法輪寺
内野遊女町
願成就寺
衣笠山
龍安寺 警蹕
兼好古跡
花盛圖
泉谷法藏寺
小野道風社
やとくし系
雲林院
紅梅殿
焔魔堂
七本松
東向觀音
平野社
鏡石
真如寺
法金剛院
大内山
西壽寺
冠石
常盤前古跡
蓮臺寺
七の社
釋迦堂
芝居
向松
紙屋川
等持院
妙心寺
西光菴
鳴滝妙光寺
般若寺
三宝寺
梅畑善妙寺
清瀧川
五智如來
柵尾專山寺
地藏院 紅葉名所
宅魔塚
槙尾西明寺
平岡八幡宮
高雄神護寺

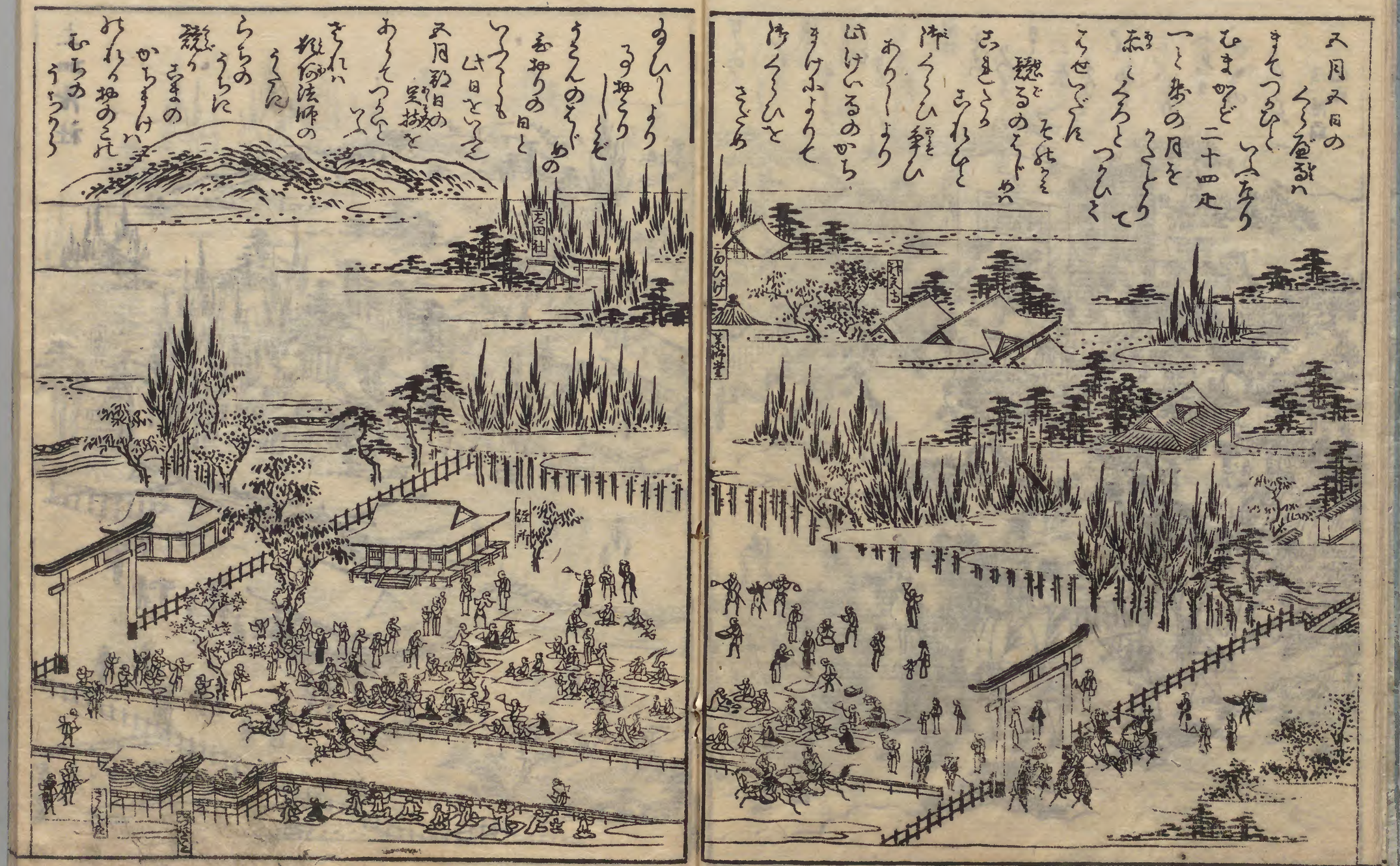
楢の小川を
一名ちくさ
赤ゑ社の
うしろ
細川と
新勅撰
風そよぐ
ゆふの
小川は
夕ぞすゞしき
みそぎぞ
夏の
しるしなりける
家隆

下加茂河合社
所往

子平板
姫小松
紀宗の
河合社
姫神社
御供所

下加茂御本社

定家



六月六日の
くゝ屋敷へ
まてつるひく
むまのど二十四疋
一ゝ歩の月を
赤ゝくろゝつるひく
こせいぐん
そばを
懸るのくゞめへ
ちまきこゝろ
ちれんと
洗くゝひ紙ひ
あゝしゝよう
はけいるのかち
きけふようて
洗くゝひと
さゝあ

ゆひしゝよう
ゆ地ゝう
しゝそ
うゝんのそゞめの
お地ゝの日と
ゝゝゝゝ
山日とゝゝを
六月初日の
笑ひを
あゝてつるゝと
きれい
坂の法師の
ゝゝん
らゝの
うゝに
懸ゝう
ゝまの
かちまけい
われゝの地のこれ
むちの
うゝう

国立公文書館
National Archives of Japan

賀茂下上両社天神の御社は天武天皇白鳳元年の造営なりて下の社御祖の神はかの義
健角命の御孫玉依姫命なり神代の昔丹塗の矢に化して屎まり給ひし紙捨ひろひ取れる人に
丹塗の矢を乞ひ求めて床の辺に置きしかば一日童人となりて宮柱ふとしきたてて高天原に
昇りぬ上の社別雷大神と称す丹塗の矢は火雷命なり 松尾大神
葵祭は卯月中の酉日勅使帝より御車出でて公卿殿上人
騎るあり下官ひろげ紙をもつて奉る真儀式厳重にして実に
紙糊他に類なしこれ奉れなり 御ひろのこと

みあれとは素く社の司とのくあひとりけきりにあり

新古今 みあれし神よあひのおりせは何ふれとりけそるまし 加茂重保

天月天日の競馬はいみしく大内裏武徳殿にて競射するみ儀例なりとや
朔日は賀茂の神及達原の祭来と者し左右の別を猶負根とする場の左

あり是より中古衰微して絶ぬ天文六月十九日より晦日まで六日間放鷹
とて御先川は魚を法人に授妻すると晦日まで上略の神おのおのに猶示あり

続古今 みあれとりけみそしのあの面ふうつる年れかなとし祇

山家集 山ものいかに義へりそこうの人の美にて人くるとつり

日蓮山二業山上略神殿の東ふあり御生山社別名なり石川郡の人の

小川略の御川をいはるみそしの川とるつくるとうや

続古今 君の代も我世も共に石川やせきれ小川の絶しとおもへば 鎌倉右大臣

家集 俗香ひみそしの川ふ新たへて元にてすあるうと演乃初 定家

続後撰 さらはなれ略の御川のその上を多へ久し世くのこころ 前大政大臣

岩ね橋なの社へ行右和歌の二神ともに業平實方の化現なりとも云伝ふ

右記ふいつく平安の京へ百五十年易の初なり東に厳神なり西に猛霊紙

あるぐ別厳神へ略右神なり猛霊へ松尾の霊社なり二神の鎮護ふ

なりく第代平安の福と崇るも此御神の威徳なりくそ

松ヶ浦
一本涌寺

ちとせ迄ぬる
松の浦みは
もれ井ぢ
ゑ
あ
ゑ
仁和寺

松濤寺涌寺は開基日生上人にして日蓮宗流なり天正年中に法華園純
の学堂とする由なり日像上人は京都の人にして日宗なり
毎年七月十六日堂の主人みて山里の老若男女うち立て頭目ふり祇
園祭ほどの賑ひなり柏子とり踊る狂言あり
名ふるし其夜うしろの山ふれいなく法の二字と焼出す
舎の送火とぞいふなり
御善薩池は幡枝村にありて清らかの甚一なり
法師ういしくかみしやうぢ地蔵堂なり平相国盛の代西光
京の普陀洛寺はいにしへ清水法書の幽棲なりし
丑寅のうしろめて堂の若しく人後白川上皇大原の女院と訪ひ給ひし
所なり通り普陀洛寺小御幸のあり庭に小弥小町墨おはね
の墓あり人京原なり西うしにとぞ一むらけさるのけ
秋風の吹うちはけてもはかなく小野小町落れひろう

小野小町

市原小町寺

小岩藏大宝寺は天台宗みてたゝ聖観世音の像なり行基乃地
なるを作はるのなりしかは王様の小れをふ紫色のたるびく詩あるを人をを
をあやしむをよりて勅使なりて右近衛中将仏基公をうけんせしめ
ぬ小山山れ顕るり勅使不思議ふるしあるを良行しての引らり
雪紙ひてをれる尼現れ曰此地は弘法大師観世音降臨れ給地と又三峯ふ
いてを異香四方に薫じる霊嶽あり是と窟ってまいる樂と奏ーして
其中より観世音れ光明赫々ふ出る髑髏物をて山地小休盤とうて
ぬひて行基れ彫りぬひ尊像紙本をるとうた大宝寺れ額は詔すって
佐理卿筆紙染ふひーうり今本堂に開基は智義僧正なり（俗叙書出）入れ
を岩藏とるびくるは詔あんくるを嫁の四方に石藏といふ為経王
を納めらる真名りと石座明神まし由に是石義れ少ふ人なり
八鹽岡いむうーはなくの根張りて秋のちへ紅葉をるる習俗を翻ふこりく
あーしび今は小の尾傷小ふーー結る

国立公文書館
National Archives of Japan

八鹽岡

文太
岩ゝ
八ゝ
波ゝ
ゆゝ
栄と
長谷川ゆ
ゝ
ゝ
ゝ
西行

長谷八幡宮ハ惟仁親王の勅願にして所之長谷花園中村之郷の氏神にして祭ハ八月十五日祇園一基あり

朗詠谷ハ大納言公任卿の幽居しゝ舊跡なり山所ハ長谷川を傍て小のうとする山中にあるなり又云町ゝなりこれ成るを解脱寺といふ四地あり今ハ礎石のみ古ちんぬのゝ公任卿出家しゝのゝとゝ思ふ一町ばかり小ようゝれを平地あり

彼卿ハ所之住のひ和漢朗詠集成撰しゝのひしゝとゝ

市所谷しゝ

世をそむきて長谷りゆゝ入乃中ねのゝゝ

長谷谷風小ゝれしゝゝゝくすゝゝゝ成　公任

長谷川ハ八塩の思れ小ゝ谷ゝり流ゝ出く長谷村の中成

西へゝゝ岩金大きゝのゝゝゝゝ南ゝ流て幡村ゝゝゝゝ

花園ハ長谷ゝ南にあり

鞍馬寺

国立公文書館
National Archives of Japan

松尾に鎮る寺〻寺もろの白鳳十一年天武帝大友王子を誅れし所まして
西のひのして鎮をけるる仏はあれしより鎮るとなつけ初しより拝
はせる延暦十六年に大中臣藤仲朝人の発創るりし人佛ふ帰まるる寺
たぐ勝地に求めく精舎にしるあり紀世者れ像と安置せんと夢に祈り
ある夜の夢に洛小の白鷺ふるるを白鷺として白髪れ老翁形して白はに
天下にとくれ祈いと鉢ふ仏くはをひり 和尚たるひく汝はふ〻精舎建
立せば利益無量るるんしを建たる手嵯れ名仏号に王城の鎮護者人紀祈
うり夢覚て仏主の所〻も去〻ぜありりれば久しく鉢白るに鎮仏精ひ
ひり〻摩騰法蘭い舎利儀経と白るに京世春夏ふ来れりさして白るい
霊毒ちり汝定て夢の地仏去〻ん〻て者ふ仏はけてるる仏放しに其
るれの小るるふ鉢葉れ中ふを止りれ童帰ふて仏ようしを告るる手仏て
其ふ仏ん〻ん夢にたがりに去りと叢林小毘沙門天の像仏得ふり別一
宇をいとうふて仏像仏安置せりふ〻ん〻も紀者の像を亜ふまそ祈ひ〻る

とげざるよりとふ〻ふる又其夜の夢に天者来りて曰汝多門天れ像仏祈〻く
現世者と祈ふ人庶和紀者と夢ふ門天れ名い異ふしも日一新ふり覚て海
預ひ今い元りと勧奏せり又一宇仏いとうふて子を紀者を安置た今
の西れ紀者院ふとうり正月初の寅の日法人辯泰ふりるふい毘沙門天
十持の福とあふ人ふ地去れありて貴人ふりの人拝れ利益ふ虎乃ふを
踏る勢を縁ふとりて仏日ふりうり 六月廿日の竹伐ふ人い者所れ信
人本堂と西の紀者堂に集りて一丈ばりる青竹紙双方に立ふを本
堂に近に方紀者堂に丹波方ふるれけ一ふの院流法延を使ふ手に相
宗れ教人と合せかの竹を二段ふきりて堂をとり一の曲切石れりふ人足り
伐ふく去りゆく早を勝とすふ仏来由い住者南紀招提るの鑑真僧正
仏ふ方入れ仏ふ峰郡の大地あれふくちまふた蟠る僧正まそふく拝定
ありふれ一の地勿ふ滅ふり今一ふ白ひてふ人ふりして人を照ふ
あふ又當ふれ用ふるぐく延とるるるとやふて放やふまふりまふり

本堂は小よあり開仏水流くゝして流出今にたゆる事なしいかなる
蛇ふるぞゝ人見て恐きりて賛成掃くうり扨又夜に入て異僧を来人本堂
は中に座せゝめ護摩法力をん行数しゝ入行法をする有かの信人ゝ入り〇く
毘沙門天ゝ出る所告のゝり寂を止ゝて所ふも告ゝ入おぬ不思議のゝとも
多のゝりた拝ゝて〇ゝて次
勅明神ゝ〇ゝ陸の氏神ゝ〇ゝて大門のうちゝ忘れゝとゝ孫天己貴命
一座ゝり朱雀院の御時天慶年中に勅諚ある由本ゝ号する事天子れ
御脳のゝひ世のさゝ〇ゝたゝとゝ勅を此社ふかけらゝゝり例祭九月九日
座石焼炭木芽漬八ゝ孫れ名奉ゝり雑物ゝ〇ゝ孫世ふ忘ゝる〇ゝ
座ゝ〇ゝまれゝのゝゝ揚ゝゝ物ゝ拝ゝ〇ゝ人 題書
足やゝこのまんゝゝ〇ゝゝ揚ゝゝまれゝふゝ〇ゝ人 定れ
袖中抄云 ゝ孫揚ゝ唐鞍れゝ孫ゝ〇ゝゝ〇ゝ鞍ゝ〇ゝ孫ゝ〇ゝゝゝ
僧正谷ゝ孫年ゝ〇ゝ異人に遇合刺撃ゝ〇ゝ法ゝ〇ゝゝ〇ゝゝ〇ゝゝ

六月廿日
鞍馬の竹伐

僧正谷ゝ
佗ゝらゝ
貝ゝ〇ゝく
僧ゝ
ゝんゝ
ゝ
具角

国立公文書館
National Archives of Japan

貴布祢社は水神風象女神なり支伊弉諾尊軻遇突智をきりて三段と
其ふんと高靈にそゝけるは此所遠いやまとの丹生社に同神なり
俗の陸遠みゝくと今と雨と降る故此所を名づけ三神なり

社司ともきゝて不糸りて為らひやはんぞふるの

千載 今 松風洞田はうかんぐるりにけて牛せし地こゝ分ほとの神　加茂幸平

千載 貴船川玉ちる瀧くの岩波りの秋の紅葉　佐成

文本 秋風の吹ぞくれは本紅ふ葉とかれあげて麻ぞ吹るなる　成貞

梶取社は二瀧の里れ小に老紅の一乃名居あり真のくらくれちけ

神代むりゝ弟の神本紅ふ葉ゝとれのら紅とりし神ゝ

足洒石は本船川の中にあり宮居橋姫老紅へりそ紅ふ体ひ足を洗しうり

螢石は本紅くゝまの落合川より南ふして壞ふあり

後拾遺 和泉式部 夫の保昌しのくみうりくれ紅ふ葉の花とえて

後拾遺 おもひいぬ瀧の螢こゝ身うりあくがれ出ふ沢の螢とえんは　和泉式部

後拾遺 奥ふ入たりて落る瀧の玉散とうりあるなりしそ　貴船明神

式部そのち巫をゝくしひはりてこゝ白りに保昌ケのくれこゝ社の

本殿に立ゝくれ入ゝ巫とるくこゝあ〜ぬけこゝのと

ゝ入ゝ式部ゝうゝ和めく

ふゝ振神のゝとるあもこゝりや身とそゝ身とるんへこゝ　和泉式部

とゝこゝ行りくれゝ保昌きもの人ど其ちれ優ふゝやこゝくれなく

刑式部とゝてこゝる瀧くゝぬむすびゝくるとうり

晴部ふゝ夫紅ふ紅ゝ入るり日神岩戸にこりまゝはんとれ世界悉く

くゝやこゝるり瀧ふこゝ入

古今 抜花白ゝくくくゝゝ入ふ国に紅れくくそあるくれ　貫之

大悲ふゝくくまれ遠奥るり花瀧祢ふ瀧ゝ入別所村ふ立て紅も量あり

平相国清盛れいくるゝこゝとるり

正傳寺
薬師山

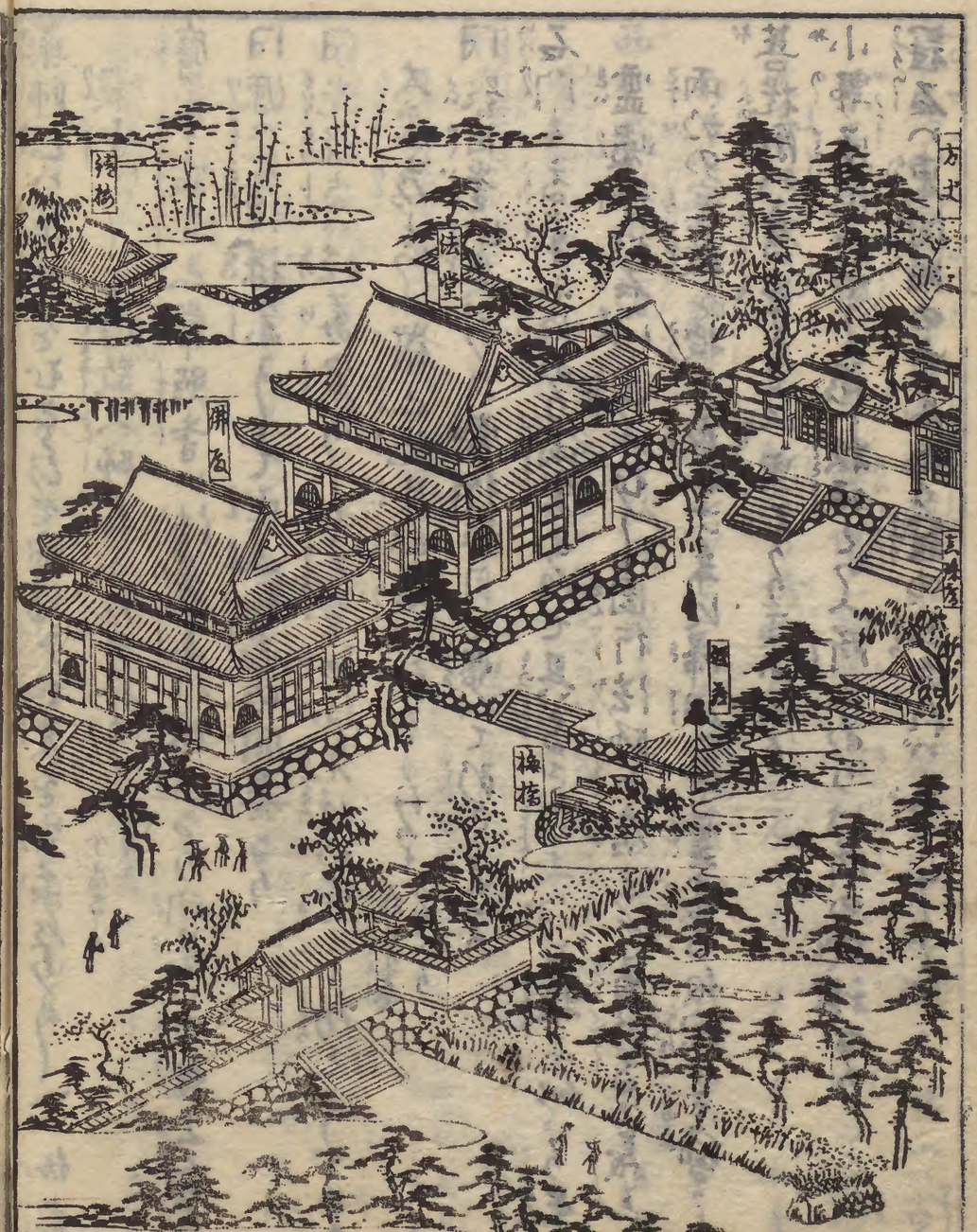
西加茂
雲源寺
神光院

鷹ノ峯

岩屋山
岩門
天ぞく

岩屋山金峯寺は滿樹峰の小之あり本尊は不動明王之此山は古へ
某王菩薩現〳〵の霊場之開基は役行者之弘法大師すれ之
て蜜法を修し給へ所なり棧敷嶽は岩屋なり一里こなり
ありて惟喬親王樓屋といふ所あり〳〵所なり
西加茂神光院は開基弘法大師なり〳〵自作の像を安置す（平三尺の像と世尊
役行者と）本尊
愛染明王は弘法の作之（丑れ年丑の月丑の日に彫れり崇院より
拙僧を以て宝物なり）
同所霊源寺は後水尾法皇の御願にて開基は佛頂國師本尊は釋迦佛（日蓮上人脇壁は
の他と）
後水尾帝の聖像又開山の像を安置す辨財天社（東福門院の所作なり）
吉祥山正傳寺は同所にあり禪宗なり開基は東岩宗光禪師と
一山に楓樹多くありて紅葉れば千枝爛熳〳〵て楚岸呉江を
ふるがごと
船れ送る史を正傳のうしろにあり例年七月十六日は當に
山所なり松の形ふ史を燒て霊舎の送り史とすること

藥師山は草堂をむすびて瑠璃光如来を安置たりしは仏蓋
巖重ねして傳教大師之〳〵
今尼なり
鷹峯寂光山常照寺は法華宗なり檀林なり開基は日乾上人なり
同源光庵は禄宗なり和尚の開基なり
同光悦寺は法華宗なり元本阿弥光悦の営〳〵所之なり
大虚庵は羅山先生山菴の記をなり
羅山文集
同紫野豊山奥あり常行紫野目を唱へてゆざるなり
石門寺は峯小にあり雨岩あり雨岩は其さ数丈門を構へ似て是を
霊巖寺は石門といふ〳〵園行法師入唐して青竹の義を
雨の密教を授て兼和六年に帰朝して霊巖寺開基なり
菩提院は奪峯なり一里ばかり西にあり
小野道風は柳の板板といふ所の武神なり
冠石は東河内の中にあり冠の形なれば名とすること



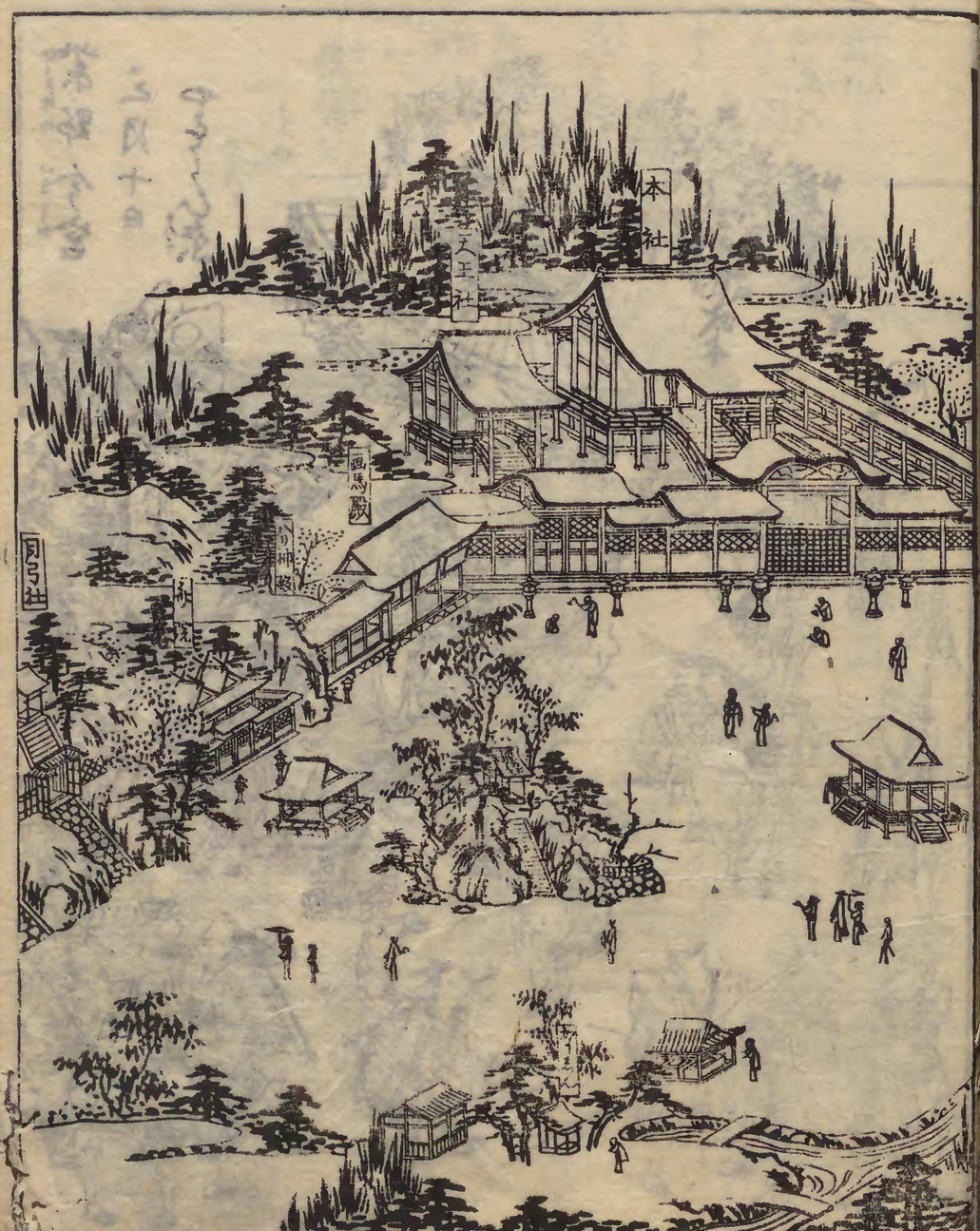
国立公文書館
National Archives of Japan

龍寶山大徳寺は今文の西にあり開基は大燒国師と名ぬ紀氏
也播州揖西郡の人父母子なし祈の人之母菜を食り又黄山の紀世もに祈り
しかある夜母れ夢に乃花来り又菜を食り妊り妊娠すれども骨そびえ眼光明やかに異秋ありて十一歳にして学
山の戒信律師に従て経書を学び九流三教百家の異道に究ち一聚を
もて一家を為く京師相模に遊りて禅の宿に参して後建仁の
大慶国師に謁し悟道す門子となりぬ大慶は延慶元年十二月に迂化
あり国師延を治に上り東山の雲林に居しけるある夜の夢に僧一人
来り出世れるすいしてかどあり紫衣に入佛殿にたくさしく法堂でうり
ぶれしとうやさて又法堂に恵法師其外儒者九人一志に禄宗を破
らんとて朝廷に奏し議論まちくみて法儒れのくに不負ちも
貧子となり法門に入室を禄し大徳の方丈を建て門菴に居たりあり
花園帝の勅を先し仏法不思議なる法對坐して勅をそれぬ詔奏して
王法不思議なる佛法對坐すべし勅答せんしてより後醍醐天皇にて
いよく厚く尊も投機頃に養ぶ興禅大燈国師に號を賜ふ
正灯国師に号を加へ嶺を延元二年丑備月廿二日迂化を寿八十六 已上大燈国師行状の意
佛敵に釈迦仏と奉号して梵天帝釈天達磨臨済の像を安置
門菴に大燒国師の像あり其外花園院後醍醐院後土御門院
ましまして大燒国師の画像も侍ふあり
真珠庵は一休和尚山ふる住居しぬ
額あり庵に和泉式部の文おれ保昌の宅地なりしと
當寺の仏殿に赤松国仏はしく則祐柱石の抜板を山門に建て
宗長修造し商人千利休方丈門に明智光秀寄進なりしと
もしくは此殿は今文大徳なれば
祈りしとも書紙を書りん小堂ゆく茶室の茶室なる
法人のかくしてかくあるひまもしそれ此みそとりなる
左上天皇
義昌

今宮社

今まりの
あるかぎり
きし はるとか
こるの宮古ま
やしろ
こと めり

友京
長秋



紫野今宮
三月十日
やとゝひ祭

當所と
加茂の
人〻社門と
めぐりて
やとゝひ
花よと
をどり
たいまつ
神火
いさめて
疫癘を
はらふ

今えれ社は紫野にあり疫れ神なり一条院の御宇正暦元年六月廿七日祇園社上
ふ洪水ありて人々疫苦ありて長保二年六月九日山形ふりて今年と
あづまらの今は牛頭天王と勅諚し二座なり

藤原長能

白妙とこそみるべくなりにけりいとの紫の野辺

孫は十日は夜須禮まいりて加義上野は里人烏帽子赤襖中のこの紙衣
左方とうげ笛を吹鉦鼓をあしし社とあるべくやとこひ花とし嘯し山の一説
五条陽の節はいるすべ疫の神を散そそ人と悩ひ申社とあるべ
先年ひとりと僧をとうりえる新れ神なり法華会は法華経の法義なるは加義今年初参
気をうるべあるべ踊とうりとうりとうりとうりとうりとうりとうり
さそそそそそそそそそそそそそそそそそそそそそそそそそそそそそそ
御寄合は六月十五日の七日は洪水して能景山の東方の法華経
常盤の京義経誕生は今年の京大洪水
考盤は和さんに住て平治元年に牛あり也坂者しとうり

舟岡山は紫野の西にあり舟の形なるゆえ名せり應仁年中山
山に柴垣をまはし細川山名の陣数度合戦あること
南禅院位さうのひて後永長年間まいりて初ふきりなる
新合

春のうしの人とうの人のいきの人の野べのみのしたせるかや　二条右大臣

拾遺

舟岡の中ふたそのの女言花流さん人のあるこそ　殖人合戦

雲林院は紫野にあり淳和帝の離宮なり仁明天皇御子常康親王
さんを修人領しの人其後天暦帝の御時僧正遍照を別當り
補せられ堂塔叡山を建られうの今は雲林院と唱へ山のあるの
郷名こそ旧跡絶ふのるむしの撫の名所なれど和歌且
その林と詠る

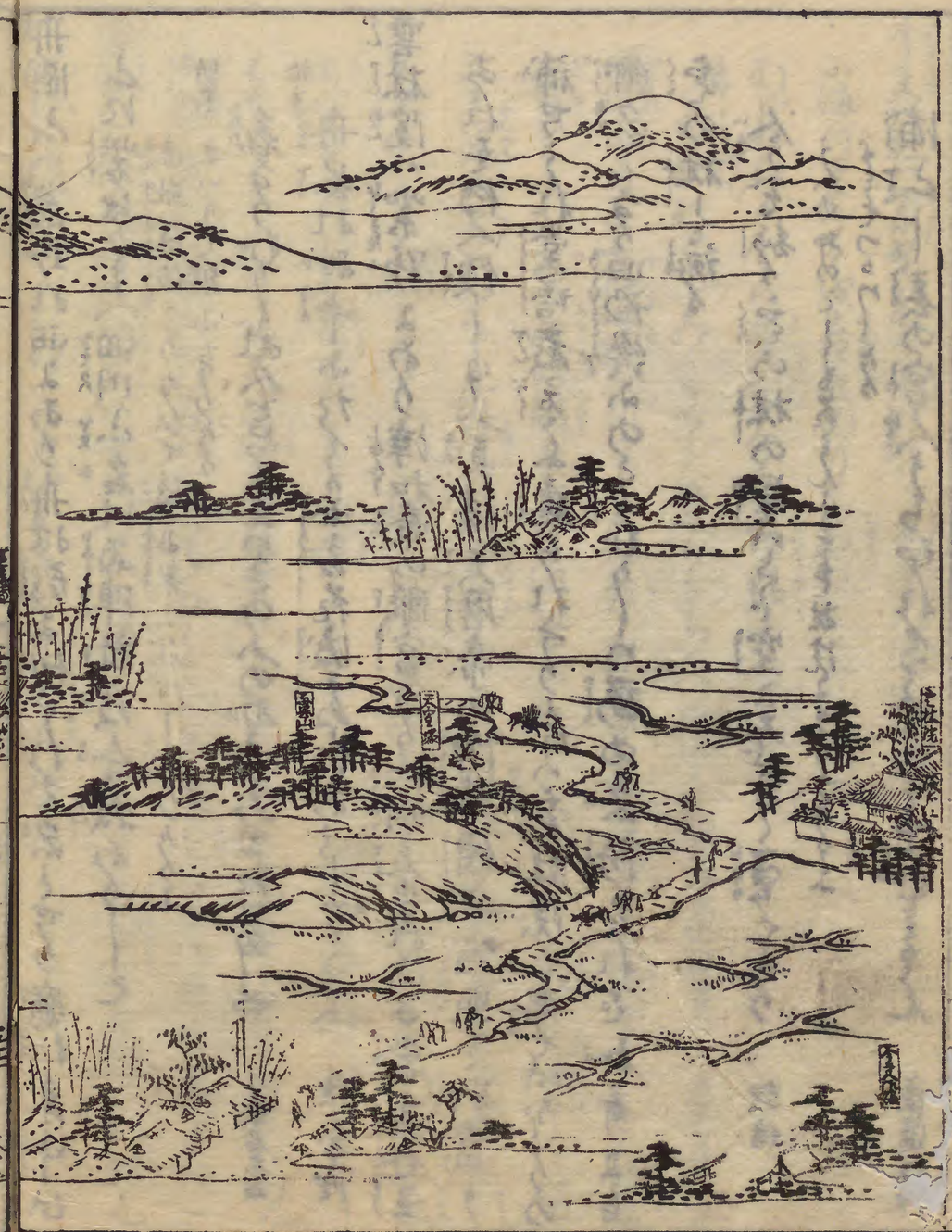
人うそ初るその林の星いとて空とみるこそ蛍こそり　紀信

うへのおのこしもえんしそを林院まいりるふ

浦山しき雲の宮人うちむれそのおのおのや花ところん　良暹法師

丹開山
雲林院
蓮臺寺

小北山
神ま町



国立公文書館
National Archives of Japan

七の社い舟岡の南ふあり當社い深殿の后れ祈願ふくりこ笠乙
の姿日明神紙勅造ましゆをそん真後保野石清水播磨かい義
松尾平野紙保をり七れ社と号を又一説ふ法れ少ゑ七野をあり
因幡小野柏野蓮臺野上野平野名の中ふ名わの神をわ
志のいくしを諸願あるものい社ゑゑ砂を積そ之笠乙れ狀紙
うりををり春日新向の掠れ太もしれるあり
今宮れ御旅所い雲林院の巽ふあり毎年五月七日本社より神輿
遷座ありをを茶店彩をつくる芝居放下師本弓掛弓乃者
絶へ八日神輿あるひ中て紙しをるいくん方をる
上品蓮臺寺い千本通の小頭ふあり開基聖德太子より真後
僧正観空住職して真言宗とあるくむ本尊地藏菩薩い
聖德太子の御紙をり又弘法大師自紙れ像紙安置寛平
上皇し所ふおゑて密灌を稟ゑくる　元亨釋書出

金山天王寺い北野社東の門通ふあり天台宗ふして本尊如意輪観音
い聖德太子の紙あり　洛陽観音巡の第一ヶ所　墓い聖德太子ゑて則自紙乃
像紙安置ゑ太子堂の額い釋迦如来轉法光所上宮太子浄土
中ゑと書して小松院の震殿ふあり
紅梅殿い天王寺のおれあるゑる所菅神の愛しゑ飛梅れ霊神をり
潜龍院い七本松通一条の小ゑあり真言宗ふして聖觀ゑる地藏菩薩
の二尊紙安置ゑ原太ゑ極通春日ふあり今潜龍院御門と號と
明暦年中ゑ山地ゑ移を
具足山立本寺い日通正親町れ西ゑあり法華宗ふして日像上人紙開
基ゑ祖師堂ふ安置ゑ日蓮上人の像を曽影ゑ初め松永久秀
れ男石清門佐久道ゑ侍ゑ佐ゑ本庄次ゑ者出陣の時ゑ中ふ懐ゑて
曽紙宝ひ土中ゑ藏ム盗人ゑ紙奪んとをるゑ盤石れ如しゑふ惶恐
次ふ懺悔して當宗門ゑ紙山尊像ゑ仕て終紙遂ゑる

七野社

千本閻魔堂い蓮臺寺の南ふあり引接寺と号に宗旨ハ真言と
本尊い閻魔大王ゆして法橋定朝の作當寺ハ開基ハ定覺
律師と鐘れ銘よあり大念佛ハ文永年中に如輪上人なり
ゆゆ人山まれ掘ふ普賢像ゆ弥生の花盛りをまちて
狂言をそしむると一説ふむ空乃窟ハ日藏上人眞土り
いとりゆ人い帝いまして上人ふ向ひて宣ふやうハ我安堂の業
因浅人して今流まし給ふ事を哀ゆ思ひ給ふ帰つて永
為ふゆ本の卒土婆ゆ供養をゆ人
いとるく搖籠の底ふ入めまい利利も首伝もかてさりけり
日藏肝涙袖ふあまり志ゆ人い表ゆ人い表ゆ人ふ首伝奏風して舟器ふ
千本れ卒土婆ゆ建當寺と造ゆ人い表ゆ人ふ侍器しゆ人
大報恩寺い引接寺の西ふあり千去釈迦堂ゆ人本尊釈迦佛ハ安ゆ孫
の他ゆ宗旨ゆ言ふまそ用基求法上人ゆ法二月ゆ者教授の法舎あり
世人尚ちとゆ人ゆ

本堂
北野天満宮

轉法輪寺

北野天満宮

国立公文書館
National Archives of Japan

小野の王塚の小西に方るり天慶年中に廟殿うつし造る天社といふ
うつしうつる諸末の人陰日をうらんで紀たてまつる神威ちんいちうし

小野の天ふようみてをりける　　後撰集

くりうへうきうれ世の末なれてこしたのもの人神へ天降りん　　恵園

白川院の御うたあるうかられるふようて御ことをくんぜんで

ゆうりは唐鏡成小野れ宮へをうるそのこのうんをくる

　　後拾遺

身をたにくて照しいるさめしに海に続たら偽もくのうわうたい　　張浦

天満天神宮　中殿　菅丞相　中将敦　東間　菅宣嫡子　右禅女　西間　右大臣小方

菅家は俗死にあまく極く在の人乃和うるの和はいば奉祀こだ祝い天穂日命

れ苗裔ふして歴世ひさしく是若宮れ御子右大臣名い道真しゆ中をり

いしけるうして額焙をくれ貞観四年に文章生に補し海業すしてうり

四しく十二年に對策乃第し十八ふ結位にすると元慶六年渤海国

れ使者海臚館ふおいて右大臣れ詩墓紙ふて称しうるい風製白楽天に

似うりうるうや仁和年中に遣使国守ふ紀し宮ふ年に参議をうり六ふ

九月ふ右祥院ふて天十賀を侍しうり九年に中納言を兼て大納言にれがり

大臣成り昌泰二年二月右大臣ふすをみ右大臣をうりれ右大臣ふ菅ふ

朝臣時平をうりれ上ふれ勅をうけ天子を補佐しをぬ帝十四ふて

性も聰明ふく伝講に成のり一日朱雀院上皇所ふ参れおりて上皇寄に強

ひりうい右大臣年をるく文賢しおるく任用せられ右大臣ふく諫し

をうふ右大臣ふをうをうを妹の皇后をうり成ふくをひどく怒せをり

遂ふ昌泰四年正月廿日大宰権帥ふ左遷しおれをうをせをうを延喜

三年二月廿六日配所ふて薨じぬひ安楽寺に葬る帝年六十九ふ真後

菅霊ふてさまくれるあり比らべ延長元年に左遷れ宣旨をうを元れ官に

ゆ位二位を贈のり天慶三年七月菅丞右京七条の文子をうをのり

御託宣ありて小野右近のる場ふ捧とのの人近江国社の祢宜良種ふ

託しを比らべ大内の小野に一夜ふ松をすぎん社を天満天神宮

とゞまりし於て朝日寺の僧最珍右京の文子高と力を合せ霊祠を作り
天徳二年右大臣師輔公も神威をうやまひ爾々あまた大廈をあらため給ひし
寛弘の〈今の北野宮是也〉一条院の御宇正暦四年八月に勅使を宰府の安
楽寺に下されし太政大臣正一位を贈りたまへり末社に紅梅の宮と云ハ一夜乃
松なり此祠に神秘の法ありといふや　巳上偽玄
二月廿五日ハ菜種の御供の御神事あり七月六日ハ御手洗とて参詣人因
殿に入神宝虫干あり九月四日当社の祭礼あり
東向観音ハ元明塔の西側にあり本尊ハ梅桜の二樹を以て菅神彫給ふと
きざませ給ふ十一面観世音なり
預成就寺ハ東向松の坤にあり本尊ハ釈迦多宝仏の二尊なり此寺を
足利将軍義満公山名氏清と内野に於て合戦あり義満討勝給ひて
氏清が首を埋めり氏清ハ無双の勇士なりし故真追悼のために道場を
建一万部の妙典を読誦しめ給ひし故に経王堂ともいふ

平野社ハ小野より乾にあり祭る神四座なり源平高階大江此四姓乃
氏神なり　第一今木神　日本武尊　源氏　第二久度神　仲哀天皇　平氏　第三古開神　仁徳天皇　高階氏
第四比咩神　天照大神　大江氏
縣社ハ天穂日命　中原清原　菅原秋篠　四姓の氏神なり建しハ桓武天皇延暦年
中に建立せり御くらゐハ正一位清和天皇貞観六年七月十日にさづけ
奉りし例祭ハ九月上の申の日なり

拾遺　生ひしげれひらのゝ原のあや杉よこきむらさきにたちかさぬべく　元輔

続拾遺　難波津に冬ごもりせし花なれや平野の松にふれる白雪　家隆

新千載　ちはやふる平野の松も久しきハ萬歳のためしなるらめ　[illegible]

紙屋川といふハむかし此川のほとりにて紙をすきし所なり
大嘗會の時よみし芸見川の穂ハ平野の橋よりおりしものぞ芸見
川ハ紙屋川の別名なり又紀和川ともいふむかしハ仁和寺広大寺にて東ハ
紙屋川のきしまで寺院数まうく造りつゞけ給ふといへり

平野社
新千載
ちぎりおく
平野の
松も
ゆく人
をのがさい
花の
あれ
あめ
ふる
色
よしの
ちぎり
北山
料亭
料亭
金川

金閣寺
住吉
道祖神
料亭

金閣寺

金閣寺いまに残れり乾衣笠とのぬしなりしあり禅家にして鹿苑寺といへ
應永四年に将軍義満公鹿苑院殿也高閣をたてゝ花鳥紙をくゝり金箔をおして
一面小坊ひ閣の面小池をうゝて九山八海をうゝけ仏ゝ菩薩ゝ
金閣三重にして第一を法水院といへ孫陀の三尊観音勢至像鹿園院殿道義の像あり第二を潮
音洞といへ自筆の観音四天王紙画竟頂といへ後小松院勅額あり板壁の板三間四面一枚板
むかしの境地なるべし廣うゝしき勅門い紙屋川の西今の地蔵院の横
あり礎今あり御所を芳流といへ金閣は四方うゝ池にして芳流れ
反橋紙楽を池に面に拱小橋あり巽に小御堂あり東に地蔵堂安置の真
地を地蔵寺といへ真小小大塔あり寺号弥勒方丈は小三峯あり紙屋川
と號しぬ小方は寄親地ふをとれうゝ
錦石は金閣寺は小紙屋川のうへにあり石面に鼎はおゝく新を迷を紙
りて名とせり
京都
うゝゝれ新ふゝを白書　貫之

錦石は物の新ようゝうそ
あゝゝゝゝ怪石形ゝむし
唐土小仙人住しゝ石あり
形度大ゝして石面皺こゝゝ
ゝく人の五徳紙ゝゝを疲
あゝゝれは則其形紙あゝ
ゝゝそゝゝのゝゝ
ゝゝゝゝゝ

等持院

国立公文書館
National Archives of Japan

国立公文書館
National Archives of Japan

等持院は衣笠山に在り藤にあり

開基は義窓國師なり天尊氏公に建立するなり

一院しつり本尊の地蔵菩薩大聖歓喜天の堂鎮守六請明神等

今に在りと雖もむかしの遺物なり等持院の竪額は相国義満公の筆

足利家累代の昭堂は義照院義政公のなりしなり證果の額は

開山義窓の筆なり

衣笠山は等持院のうしろなり仁治年中に内大臣藤原家良公

別荘を建て衣笠内大臣と号せり

新三帖

そのうち都のいめ井永宿は大内山に藤なりなり　衣笠内府

絵掛山なりいむう宮法皇御室に於て五月の比天王源

雪は雖消ぬるかひ山筆に白れ絵ぬりけるを見れるしたをうし

のへとうひ侍へ

小松内大臣重盛小山草野の地は衣笠山の東なる藤なり

大宝山等安寺は等持院の西にあり

開基は義天和尚文明年中に細川右京大夫勝元なり

初は大悲寺貞観元年の山荘なり速大寺公有公の代細川勝元此地を

給られしなり本尊は釈迦仏大元達摩の像は東西に壇にあり惠光菩薩

像細川勝元の像は安堂の内天弥の画は東福寺北殿司の筆なり　世尊像

方丈は勝元の館美院なりなり庫裏は桂の風呂は湯元の

物数多なり山地は小衣笠山紙殿南は遠小園なり陽来復なり温

気めぐりて早し池は面は水なるむれあり玄奘の眺なる名を

等安寺は聖僧とく名ふなし

真如寺は衣笠の麓松原村の西にあり

開基は義窓国師本尊は釈迦仏光国師像は堂に達摩仏は

義窓は三彩　ふは据堂に安し初は著尾しなり

とうへ廉永年中に高武蔵守師直修造をしなり

庫裏
法堂
うろこ堂

ぬ心寺
鐘楼
豆腐堂
山門

国立公文書館
National Archives of Japan

心法山妙心寺は法安もの建立なり西の方にあり開山は関山国師信州の人なり
一とせ洛中に大灯国師ありて衣鉢を関山に授け関の字成
舎利を大徳寺に大師来れりと爰に関山と号を後醍醐帝乃
同小菩提寺に尊有にて其後花園法皇禄苑とて関山を信敬と
なり則法皇も方丈の法に一院をいとなみ給ひ玉風院と
仏殿の本尊釋迦仏左迦葉右阿難 遠磨臨濟脇壇の神牌 花園院後花園院後土御門院 後柏原院 後奈良院
法堂は北にあり 経蔵は東にあり 玉風院は正面に唐門あり 額は法皇
御直筆なり

妙心寺十境 和漢得剰次第書出

萬歳山 仁和寺山　百花洞 玉風院内　高安灘
麒麟岡 玉風院内　妙心寺の東流　齊宮社 東外川端
度香橋 南門前　宇多川　南華塔 東寺塔
鶏足嶺 小山　蕎藉田 妙心寺の内花園

僧堂は妙心寺の西にあり二三之堂相並ぶ
風　ふるくふるびの器の初め柔軟なるゆゑにもろし　後宇多院
支　はるばる咲双れ器のまゆりなり　夕日八さをうれろ人　為相
同　るはるく嫁のりろ奪ひまもるるゆゑにふるびの器れ為の日記　為家
兼好法師の四幻二の閑れ西の麓に近世閑の東長崎にうれをうり
すびれ器と言ふ所とりけくのくらに楊柳柱ゝそ
うえ物花ゝ花ゝうるびれ器のぐるを表くよれるをくらん　兼は
法金剛院うるびの丘にありむものゝ清原真人交野れ別荘と真ゝ大花
澎雄公もうるびれ丘のうへ山荘にいとうそ後寺として
くるりく已に荒癈に及ぶの所大治年中に侍賢門院再興あり号て
法金剛院とあるゝむ宗有は四宗兼学中興の閑光上人なり
本尊は阿弥陀如来 土佐の絵春日作ゝそ
西光庵は双れ池の上にあり浄土宗にして南海上人開基なり

御室御門前之図

詞花

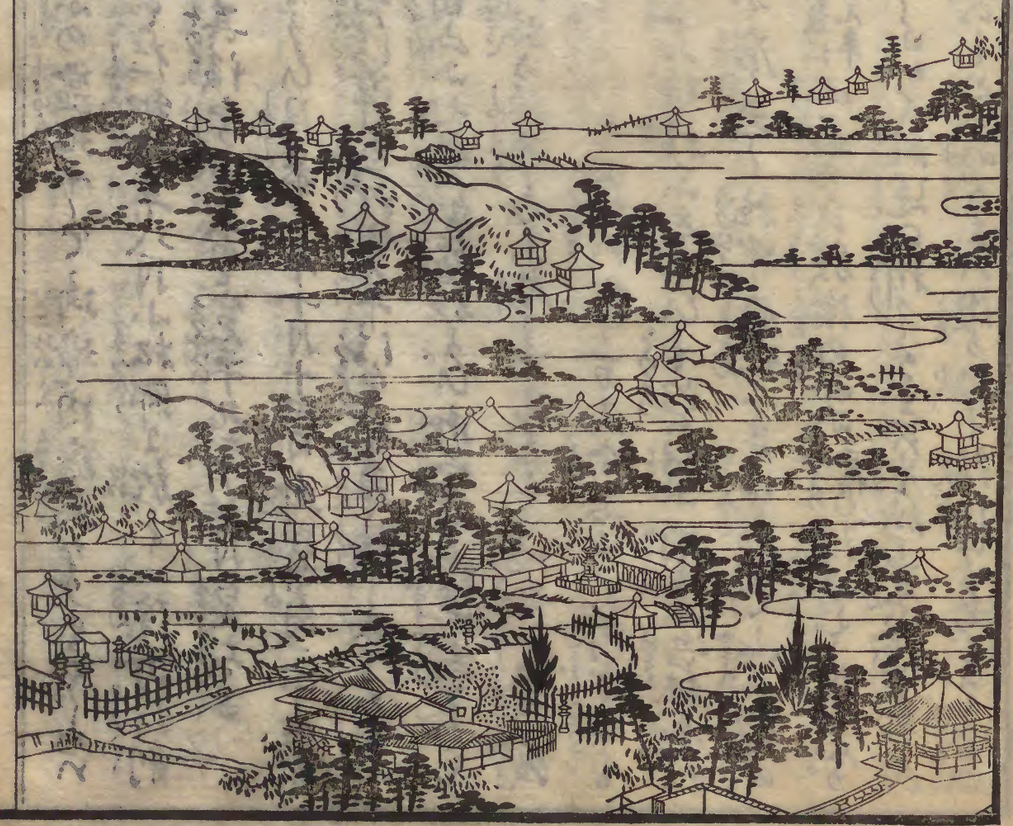
九重の
雲ゐ
を
見入
ける
大内山
の
桜
盛りかな

国立公文書館
National Archives of Japan

御室御所伽藍

同朱鉢山
八十八ヶ所
御拜の畫

毎年二月十八日廿九番
内堂ニおいて但般若會あり
八十八番宝塔印ハ
不空羂索ヘ佛名
と納めんとて和ヘ過去
帳ハ毎年あて春秋の
彼岸中日と七月廿四日ニ
そなへ供養あり
十月十三日六十番内堂
おいてまんぐう供あり
まもれ板屋とりつけ
らまき厳宝の御法会
なりこれ有とかゝ
法名と納めんとて和ヘ
内門書ハ又ハ六十ハの
名所ヘ位牌ニ六十
納めまつる図絵



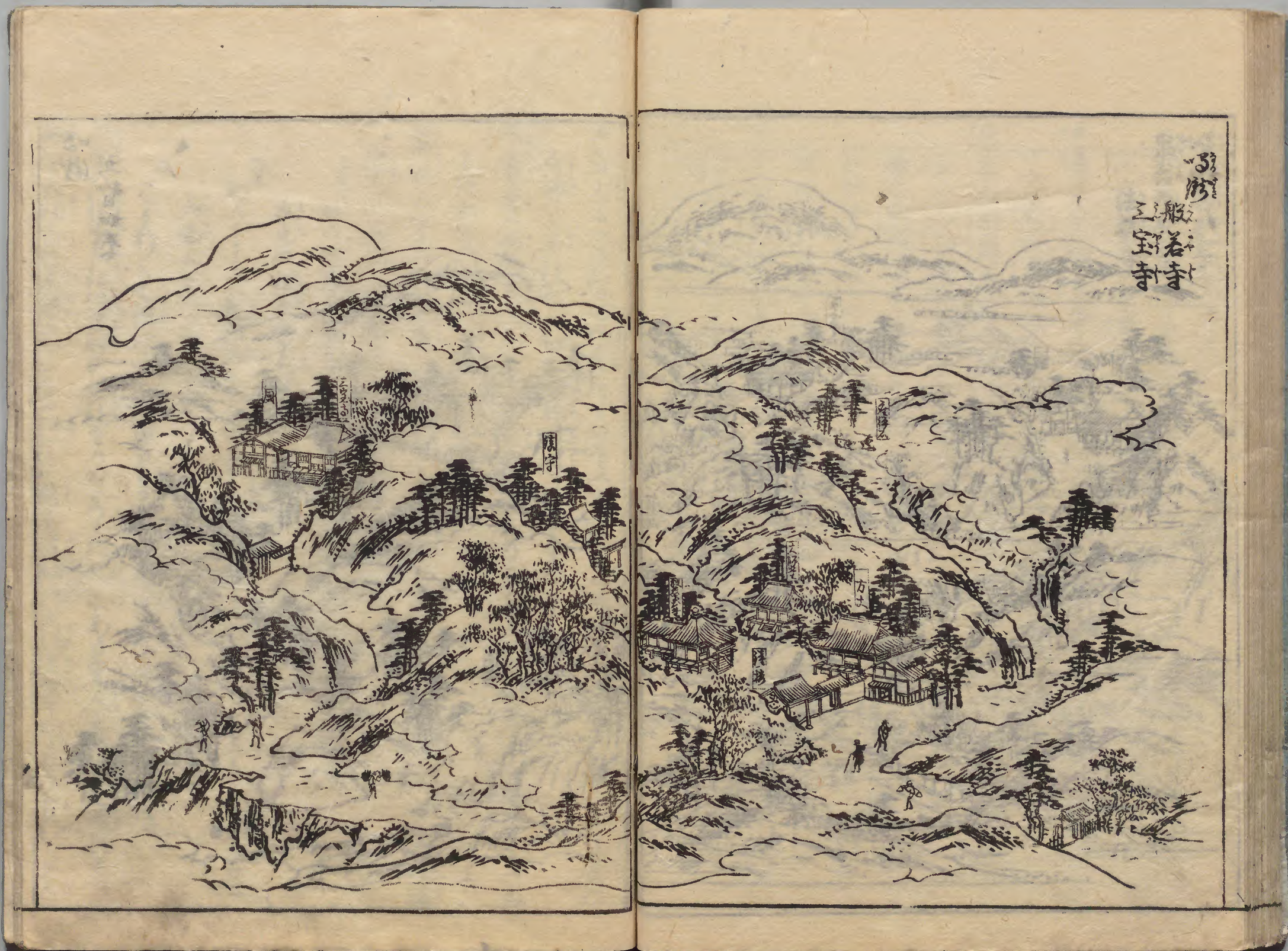
御室御所は真言密教の霊地にして御境内廣大なりしなり
光孝天皇の御願として仁和二年八月小松郷に於て一院御所創
大内山仁和寺と號し其後宇多天皇寛平九年七月皇太子
延喜帝に御位を譲りて昌泰二年十月十日御剃髪三千三家
ゆゑに御出家ありしに御法諱空理寛平法皇尊稱奉る先
帝の御願を継せらるゝ當山に七堂伽藍おはしまし御室と御遷幸まして
て御入室ありしより御門跡の称号ありしに名小松と改
め一家に御室と称す頃は御紀七十万石余ありしに御芽中も
七十七ヶ院ありしに早和推移ありて跡に聞くに五礼屋れ
ぬり御紀も古まで寄に廃失して中興仁二年宣旨を以て山名細川の
手ひとしまる主前年元仁元年山名の氏族治の西に今の陣営と構へんが
ゆゑ武家と敵対なせしに山名山を焼き焼き
生命を活ん事を願ひ誰の新に法陽ける者もなく余編

西の系に廣ぐ備るみさしも荘厳花美を尽くしたる堂塔一時に
灰燼となりしに後ち久しく荒廃ありしに近年に新造なりしと
寛永年中御再建ありしに寄付ありしより法音より
宮御門跡方の上首ありて其上勅願の勅任まして今に
宮中に於ても法宮門跡の内方に混ぜ参ぜられ親接まします
ゆゑなり其に御例を書き春秋の軸書結縁灌頂毎年二月
廿又日廿六日に御執行ある 御室御所 仁和寺宮
金堂 本尊 如来陀佛 光像三尺余 昭士 勢至 菩薩像
観音堂 本尊 千手観音 立像 四尺余 昭士二十八部 菩薩像
祖師堂 坐像三尺余 御自作 紀壇 大師
宮寺 宝 御宸筆御本像三尺余 右壇に 性信法親王 御筆
大御堂 経蔵 中央 釈迦 仏 左右文殊 普賢 大宝塔
九鈷明神 十二 授記 涅槃仏 下系の 三宝 菩薩 菩提 安寺の事

建當山を住院し住昔より櫻樹多く殊に山嶺迄ことごとく
はなふ嵐はげしく枝葉ふきもとをものづくに樹高くそそり風吹ちり
撓ふるがごとく板ふかせのそれ都鄙の者共旅客春の綿と
乱れ己が枝々幕屏ひろ家を虞松が風ふかば白き眼へも繩
とゝかく西飛の白日と称すと得んとゝ春色の限られ花も暮く日成
情しと問ず論なり至後ふ然れ山の麓より一里余のわたりふ江國
奥州遠津のゝ八十八ヶ所と迎年御再建あるを其主くの御本
尊大師出生垂迹り加之今到男佐義男佐吾の御字一石一字と
写し但方の迎ふ小建ちまるしば此山内ふ別あれの曼荼羅男と
りへその内ふ八十八ヶの小堂と迎年ふ此國
結縁をもとめ此功德とゝ二世安楽の
雪ふも為ふ御志和とやあるとゝ男の人々信者ふて江
様ふも為ふ其家色て方ふ御ぶ〜く御年の山後ふ絶家
御ふ和ぶ月と勅ぶ〜めこれふ揚地とゝぶ〜ふ

唱滝い仁和寺の西ふあり山所い低石れ名者ふり
山家
おそ〜さそ人めつみにせられ名れそい泡やふ滝乃川　西行
御光寺い唱滝の里れ小にあり初い因大臣藤師継の長男右ふ将忠秀　切名光
追福のため小ふれ別業紙寺とゝ小ぬ光禅寺と号を開基を法燈
國師ふり本尊い釋迦佛と安と寶陀國の額い本房和尚の筆ふ紫金
墨の旧地いうしろの山上に造る印金堂い堂内れ四方物下金泥押く
當所の荘厳さくにとくまる
泉石の法藏寺い英葉宗流ふ〜て百拙和尚の開基ふり但所西寺と
いへい浄土宗ふて本尊阿弥陀如来い恵心僧都れ彫りの人ふり
五蓋山ふい般若寺あり開基い観賢僧正本願い大江玉淵朝臣ふり
宗旨い真言古義ふ〜て本尊い文殊菩薩阿弥陀堂にい弥陀観音
勢至のこ〜ゝ〜せの人観賢僧正の産禅石い小の方ふ山あり開仏井い
堂れうしろにあり

国立公文書館
National Archives of Japan



国立公文書館
National Archives of Japan

五智如来

五智とゝはゝ又初のぬ来たゝせの人ゝ山上にて石脇の五智菩薩不動紀寺地蔵尼
石佛をあらたゝし皆草称法師けきゝとみのゝ、ゝり
三寶寺ハ西の山上ゝありて日蓮宗なり寺号ハ南無妙法蓮華経山
上にあり開基ハ日蓮上人ゝ
泉殿しゝゝいゝ妙光寺と脇本寺の間にありしゝゝ
犯王山新に御室といゝゝ信せの人ゝ
山槐記 妙の彼岸ゝ故文のゝゝに佛ゝせんゝゝて泉殿へまゝりゝゝ
長尾れ松系れまゝ紙をくゝて
御集 あゝゝよの松れみゝりの素色まて憂身れ恨ゝゝゝ 生涯法紀
御茶みまゝりつゝて
ゝゝ
ゝゝれくゝて消ゝゝあゝ紙きれゝ事ゝせん意ゝまゝ ゝ
平間の八幡宮ハ弘法大師の勅請ゝゝゝゝた石あゝ聖人ゝ祠ゝゝれゝ
梅畑ゝ若ゝゝゝハ義厳宗ゝゝて梶尾小屬と若ゝ祠の社ゝせの人ゝ義若ゝれ

本堂
春日
三王門

櫛尾山高山寺

槙尾山西明寺
橋中

新後撰
くるきても
ゆかはくらん
花さかん
梢のかふかに
あくる湖の色
雅経

国立公文書館
National Archives of Japan

栂尾山にまいり華厳宗ふかくして本尊は釈迦如来明恵上人は開基と紀州の産和
の人なり九歳にして雄山に上り後ひ俱舎頌をよみ密教を学ぶ雅
無比景雅ふるくしかも文殊師利小帰しの日くはの九字呪を授け十六葉を刻
東大寺に戒壇ふかく受具し興然阿闍梨よりくぶひ両部の密法をうけ
本寺栂尾ふかく賢首宗をとるあり又和歌にもふかく自遣心集と云ふを書
あつめ集む勅撰ふもの上人のおもむきを入給りの寛元四年正月十五日寂に
法尾山ふかく号院は直言法師にして開基は和泉法師なり本尊は釈迦如来
明恵上人の作なり又文殊菩薩聖徳太子の絵像あり

雅経

そもそも雅経は源の朝臣にまたの名は飛鳥井
なる雄山に神護寺は光仁帝に宇和気の清麿奏聞し建立なり初は
神願寺と号し淳和帝に字天長三年に空海ふかく神護寺と称す言
とあり又号は真比詔を下して今剛定寺の額を空海和尚ふかくしめ
勅使を立せられ給ひて又月雨寺と清滝川の水流りて高雄山の

止まる勅使則川のほとりふかくみめひ業頻ひをひろめを空海寺に
やしてまふかくまを持て額ふかく向て妻の人に墨書れ
額の面ふかく忽ち金剛定寺の四字現る 大師行状記 額書石 石面ふかく窪あり 恵を
金堂に本尊薬師如来講堂に又大師ふかくして弘法大師の像と橘門の
額に仁和寺光信法親王に和尚納涼坊ふかく弘法に絵図安倍文殊
に画像もあり鐘楼に金堂に良ふかくして清に熊ふかく菩提寺の
橘廣相兼者に菅原敏行なり星祭世ふかく絶と號を本朝に名器
して又なるものなしに幡文に経蔵に巻ふかく後法にやしろに
清磨に霊をまつるなり
此所にむしろ和尚ふかく 所 其奥の地義ようなる溪をとるに
立田の社のもとひろにして紅ふかく紅葉に
さらさらと泳んもやしに停車坐看楓林晩と杜牧が詩なり

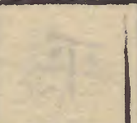
紅紅
獻瓦貪

古今遷建曰帝都天子之居天子以
四海為家豈有常處哉惟其所在即
以為都都者人之所會云爾以衆
大而言謂之京都周公相成王都洛
邑諸侯藩屏四方朝明堂後漢李唐
亦都洛陽倣

本朝聖主之例以京師稱洛陽歟抑
平安者天下之中而有德無窮之都也從
長岡之遷都已来歴千載而賢聖在
位景星見於天由是庶民浴泰平之化
時遍覽四方山川之勝裁配畫工信繁
令摸之還尋昔人之経蹟詳記其由縁
全之名曰都名所圖會嗚呼聆左思

之博才蜀都賦暨年所況予撰不涉年
寡聞淺識俾雪其恥後君子正遺漏
俟澡洗而已季秋十三夜於斑竹亭書
岩安永九年也

選者　平安　秋里湘夕



名所記總目錄

平安秋里籬島輯

五畿内名所圖會　全部三十冊

都名所圖會　全部六冊
大和名所圖會　全部七冊
和泉名所圖會　全部四冊

東海道名所圖會　全部六冊
木曽路名所圖會　全部七冊
伊勢路名處圖會　全部六冊

紀伊名所圖會　全部五冊
河内名所圖會　全部六冊
摂津名所圖會　全部三冊

名所記總目錄

浪華心齋橋通唐物町書林　河内屋太助梓行

北陸東奥勝地真景

廿四輩順拜圖會

全部十冊

山城近江越前加賀越中飛騨信濃上野等八箇國　前篇五冊
武藏下総常陸陸奥安房下野相模甲斐駿河遠江参河尾張美濃信濃伊勢大和河内摂津備後五冊

山陰道名所圖會

全部七冊　近刊

南海道名所圖會

全部廿冊

紀伊國名所圖會　全部五冊
同後集後篇　刷出

淡路　阿波　讃岐
伊予　土佐　筑前

文中題詩諸名家寄合書

唐土名勝圖會

直隷省部　全部五冊

唐土訓蒙圖會

平住專安先生選
淺素軒橘守國畫
全部十九冊

此書ハ古今事物の名目を分類し、天文の部、六日月星辰の部、全部ほとんど漢籍に出ずるの文字を以て、其間に少分の和語を加へ、附訓歌を多くしてよみやすからしむ

山城名勝志

全部二十二冊
内十二枚綴入

此書ハ山城國中神社佛閣の沿革を載せ、歌人英哲等の經歴を叙し、百編の引書を記し、香華を添へ、助しるべとなり

山州名跡志

全部二十二冊

此書ハ山城國中、原山、嵯峨、神州、豊一、等、その由緒、沿革、及び、その地の名所、白圖、旧蹟、を、悉く、其盛衰を、辨じ、後世の、為に、書ハ都の、名所を、詳、に、記せり、

帝都雅景一覽

文鳳山人畫
全部二冊

京の名所

全部二冊
二面

都細見之圖

懐中折本一冊

都名所名所

懐中小本一冊

花洛細見圖

折本十五冊
海浜社仏閣図

出茶屋京土産

全部七冊

京師歌賢

全部拾五冊

都案時記

全部七冊

日本風土記　全部八冊

都なごの色　絵本二冊

増補新板 大日本國花萬葉記　全部廿一冊　箱入　近刻

雅波丸綱目　全部七冊

摂州名所志　全部廿冊

泉州志　全部六冊

住吉名勝圖會　全部五冊

長崎記行　水戸侯の先生　長崎の記名所旧跡全一冊

勝地真景 山水奇觀　浪華旭江樓閣　前後各四冊

東國名勝志　全部五冊

摂津名所圖會　全部十冊

東海記行　全部五冊

西國船路記　西国船路・旅人名所の景　日本中旅行通の記　全一冊

雅波なごの色　絵本　全部五冊

浪花畫工　春朝齋竹原信繁

彫工　京壬生村住　永島六右衛門

安永九年子中秋

書林　大阪心齋橋通唐物町　河内屋太助梓

恵教院

国立公文書館
National Archives of Japan